

感じたままに

東京市番町幼稚園

徳久智江子

◎感謝

決戦下の今日、統後國民はすべて感謝の心持でといふ事は、最近特に力強く叫ばれて、親切課、親切週間等といふものまで出来て来ました。然しこれは何と言つても、各自の家庭の一つ／＼を其の雰圍氣にしてお會、祖先に對する感謝は申すに及ばず、郵便やさん、牛乳やさん召使ひ等に對しても、感謝の氣持を持つて居れば、一寸發する言葉にも異つたひびきがある事と思ひます。其の母の心持はいつの間にかにじみ出て、其の家の空氣となり、幼兒の心となりませう。暑い夏、汗だくになつて小包みを配達して來てくれた郵便屋さんに、冷たい水の一杯い位あげる心持ちがほしいものと思ひます。

又色々の事を善意に解しやくする事、これも感謝の氣持ちの表れと思ひます。人言はれた事、氣にさわる事があつても一應は先方の氣持ちになつて考へて見ると、「無理もないな」と思はれる事もありません。善意にかいしやくする事が出来ませう。其處に心の餘裕が出来て、家はいつも明るく期になれませう。先生のおつしやる事を母

親は一應先生の氣持になつてき、先生も又、母の言ふ事を氣持として考へて見る様にさへすれば、「一寸も分つてくれない」といふ不平も起りますまい。

◎躰は具體的に

昔から三つ子の魂百までもと言はれませんが幼い時にしみ込んだ習慣及び癖は、成人の後までも、影の様にして残つて居る事があると思ひます。屢々私達が經驗する事が御座いますが、まだ小さいものですから分りませぬので其のまゝにして居ります。といふお言葉なきは、これは反對でせう、小さいからよいのではないでせうか。箸と茶碗の持ち方はお食へ初めの時から正しくさせて置けば、後でやかましくなほす面倒はないわけですが、まだ判斷力の弱い幼兒にはむづかしい事です。本を讀む時は初めからちやんと坐つて讀ませればよいので、初めに寝ころんでも大丈夫に為なければ訂正させると非常に骨折りますが、後でなほりませぬ。幼兒にとつても、すい分迷惑な事と思ひます。かうしなげればよいませぬと十邊言ふかは、初めによい習慣にみちびき、さうしなげればならない状態においてやればよいのです。子供に「食へ物は残さない様に」とやかましく言ひながら父親が傍で「こんな物食へん」等と平氣で残して居る事では絶対に躰は出来ないと思ひます。躰は叱るものと聯想されますが、叱

らずに濟む様に初めからする事が、先づ大切でせう。又叱る時は其の現場で叱らなければ効果はありません。お客様の前でいたずらをする子供を後で「さつきは云云」と叱つたのでは、お客様の前では叱られない事を、反對に經驗させる様なものです。最近の様に隣組制になつた今日、組内の子供は協同で監督し向ふのをばさん、こちらのをちさん、同じ調子で子供にあたつていきたいと思ひます。何處へ行つても、いつでもいけなひことはいいけなひで通る様にしたいものです。家内でも家中が同じ歩調で、一本立の方針で行きたいと思ひます。お母さんに叱られても、お祖母様の所へ行けばゆるして貰へる様に、避難所のある事はよい結果をもたらしません。

◎細かく注意しつゝ大まかに育てる事

お母さんはお子様の體に、躰に、細心の注意をなすがが、それを直接幼兒に持つて行かない事です。熱心なお母様に反對に無氣力なお子様をよく見受けたい。絶えずお母様の支配下にあつて幼兒自身を出す暇が無い爲です。物事をやり通す子供、工夫創作の出来る子供、勇氣のある子供にする爲に、お母様は大きな氣持ちで、或る程度まで幼兒のする事を見守り、こゝそといふ時に釘を打つたり助け舟を出していただくたいのです。雰圍氣を作る様にしむけつゝ、自分は直接表面に出ない縁の下の方持ちが、お母様には一番大切な事でせう。